

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会
第 78 号
2017(平成29)年9月16日(土)

人が人として正しく生きるために！

てらこや 寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

- 「マー君、何か習ってるの？」 「俺さ、論語やってんだ」
- 「論語？ それって何？」 「論語って、仁の心の実践さ」
- 「仁の心の実践ってどういうこと？」 「お前、仁の心もわかんないのか。思いやりだろう！」
- 「楽しいの？」 「楽しいさ!論語の素読って気持ちスッキリするんだ。言っとくけど、素読って意味なんかわかんなくても大きな声出して読むことを言うんだぞ。お前もやってみるか？」

ある日の夕方、公園で小学校高学年らしき男女が交わっていた会話の一節です。一瞬、私の塾の生徒かと思いきや、残念ながらそうではありませんでした。私はその会話を忘れまいと反芻しつつ、声を掛けようとしたら走り去って行きました。帰宅してすぐメモ帳に書き留めました。

それにしても、「仁の心の実践さ」とは恐れ入りました。確かに孔子は常日頃、弟子達に単に仁の心を持つだけでは不十分で、それをどう実践に活かしていくかが大切なのだと言っています。まさにマー君なる男の子の言う通りなのです。何点か例をあげてみるとわかりやすいかも知れません。

1. 地下鉄の座席に座っている時、その席の前に高齢の方が荷物を持って立ったとします。即座に決断し、席を譲る。
 2. 会館・お寺・図書館等々でトイレのスリッパが乱雑になっていた時、整理し次の人が履きやすいように揃える。
 3. ハサミを貸してと頼まれ、相手に渡す時、ハサミの尖った先ではなく、握る方を相手に向けて手渡す。
- これらは、いくら心に思っても形に表さなければ意味がないのです。まさに、「仁の心の実践」ということとなる訳です。

一度は経験した人もいると思いますが、行動を起こすにはそれなりの勇気と思慮深さが必要です。実行して初めて真の思いやりの心が芽生えたことを実感できるでしょう。

私は塾生にいつも、『論語』は「人が人として正しく生きるための教え」なのだ、と言っています。言うなれば、『論語』を通して理想的な生き方についてのシンプルなルールを学ぶことができるということです。

私が主宰する「寺子屋・こども論語塾」も早いもので今年の12月で7周年を迎えます。

先ず坐禅で調身(姿勢を整え)、調息(呼吸を落ち着け)、調心(心を静寂に保つ)を心掛けて集中力を養い無私の境地になる。そして、『論語』の素読で豊かな感性を育む。珠玉の言葉は子供にも大人にも生きていく上で大きな力となり、人間形成に多大な影響を与えてくれるのです。

さあ! 孔子の教えを実行に移して君子への道を切り拓いていきましょう。

人が人として正しく生きるために！

【お知らせ】

来月(10月21日)の論語塾は、坐禅三昧・論語三昧・論語暗記素読大会になります。三昧とは熟中して楽しむことです。論語三昧では小・中・高の塾生の皆さんが先生の代わりに授業を行います。また、論語暗記素読大会では、幼稚(保育)園児・小・中・高の塾生の皆さんに暗記した章句の素読を発表してもらいます。開始時間はいつもと同じ午後2時からで、終了も午後3時30分の予定です。楽しみにしていて下さい。